



抽水植物がある環境を好むチョウトンボ

ヒメガマ 広がる 井の頭の池畔

井の頭の池畔にガマの穂が揺れる季節になった。ガマ類は井の頭池では主にかいぼりて整備された浅場で見られる。生育範囲が少しずつ広がり、さまざまな水辺の生きものの生息場所にもなっている。

浅場に植生が定着

井の頭池は岸付近の水深が1m以上あり、浅い池や湿地を好むガマのような抽水植物の生育場所が少なかった。こうしたことから2016年と2018年のかいぼりの際に、池底の土を岸に寄せて浅場を整備した。その際、早期に植生を定着させるため、池に生育していたヒメガマを浅場に移植した。

現在浅場には、ヒメガマのほか、盛った土に含まれていた埋土種子からガマやコガマも発芽して、茂みを作っている。

レッドリストに選定されている希少種も生育が確認されるようになった。昨冬に行われた池畔の傾斜木の伐採や剪定により、明るい環境となった場所ではサジオモダカ(東京都レッドリスト(北多摩)情報不足)も昨年に比べて数倍に増えた。ジヨウウウスゲ(環境省レッドリスト絶滅危惧II類)も生育範囲が広がっている。また、今年はナガエミクリが初めて確認された。

チョウトンボがやって来た

水辺の植物が生育する浅場には、ギンヤンマなどのさまざまなたんぽが生息している。今夏のビッグニュースはチョウトンボの確認だ。ヒメガマの上をひらひらと飛翔する姿を多くの来園者が楽しんだ。チョウトンボは抽水植物が繁茂する池沼にすむ。井の頭池周辺では生息地が少なく、東京都レッドリスト(北多摩)でも絶滅危惧II類に選定されている。

橋の際のヒメガマでもカイツブリが営巣

井の頭池に見られるガマ類のうち、七井橋の脇にあるヒメガマは、深い池底から生えてきたものだ。1回目のかいぼり後の2014年、池水が透明になって水中まで光が届いたためか、発芽すると勢いよく伸長した。生育範囲が年々広がり、今では立派な茂みになっている。今夏はその茂みの中でカイツブリが営巣した。

(裏面へ続く)



環境省レッドリスト
準絶滅危惧

浅場で初確認されたナガエミクリ



ヒメガマに止まるコフキトンボ



ヒメガマの茂みに営巣したカイツブリ

しかしその巢は、橋からあまりにも近く、興味を持った来園者が腕を伸ばしてスマホで撮影すると、抱卵していた親鳥が驚いて巢から離れる様子が観察された。そこで、橋の片側の立ち入りを制限して、至近距離から観察しないように呼びかけた。来園者の協力もあってヒナは無事に孵化し、成長していく様子を大勢の人が観察した。

ガマが倍増！ 弁天池

2018年のかいぼりのときに整備された弁天池の浅場には、ヒメガマよりも穂が大きい「ガマ」が群生している。埋土種子から芽生え、少しずつ生育範囲が広がってきた。

昨冬行ったかいぼり隊による作業にて、浅場の仕切り板の外側へガマの地下茎を移植した。日当たりが改善された効果も加わり、今期はガマの生育範囲が倍増している。

弁天池の浅場は狛江橋からよく見えるので、ガマの茂みの中で、稚魚などを狙うコサギや、カイツブリの親子を間近に観察することができる。浅場の生きものたちを観察しながら、池畔を散策するのも楽しい。



成長する！ 弁天池浅場 上：整備当初（2018年） 下：2020年



カイツブリの営巣地を囲っている様子



浅場で獲物を追うコサギを見る来園者（狛江橋）

いけいけ！ かいぼり隊

イケメン イケガール
～池男&池女、活動再開&コカナダモ駆除の巻～



新型コロナウイルス感染防止のために休止していた活動を、9月から半年ぶりに再開したかいぼり隊。そんな彼らを待っていたのは、これまでにない外来水草コカナダモの群生だった。さっそく、毎週のアメリカザリガニ防除作業等に加えてコカナダモの駆除を始めた。カギ爪の付いた竿を操り、藻を根元から絡め取るが、切れ藻からも繁殖するので、浮遊している切片も残さないように網ですくい取る。リヤカー24台分を回収した日もあった。

井の頭池でコカナダモが目につくようになったのは昨年からだ。これまでも駆除作業を行ってきたが、今年は昨年よりも増えた。コロナ禍で小さいうちの対応ができなかつたことも影響しているかもしれない。

数箇月前までは水面に在来種のツツイトモが多く見られたが、今はコカナダモばかりが目につく。「モネの池」と賞されたツツイトモの群生が来年も見られるように、しばらくはコカナダモの駆除作業が続きそう。



重点対策外来種・コカナダモ

今号のイチオシ！ 自然情報



ハグロトンボ

黒い羽と緑色光沢のある体が印象的なトンボです。今年はこれまでにない夕方で、池畔の下草や柵に並んで止まったり、追尾したりする様子が見られました。